

(様式3)

平成30年度 動物実験等に関する報告

水産大学校

項 目	報 告 内 容
1 動物実験等の実施状況	
(1) 実施件数	当該年度の実験件数の合計 10 件
(2) 使用動物種	当該年度の実験に使用した全動物種名 マウス
(3) 関係研究課題数	当該年度の全実験課題数 10 課題
(4) 実験課題	課題を順次記載 ①魚油添加食品の機能性と魚油成分の臓器蓄積性の解析 ②水産機能性成分(タウリン)による肝機能改善効果の解析 ③水産機能性成分(セレノネイン)による肝機能改善効果の解析 ④脂肪性肝疾患モデルのFxr欠損マウスの繁殖 ⑤汎甲殻類由来トロポミオシン交叉タンパク質の抗原性評価 ⑥エビアレルゲン-オリゴ糖複合体の抗原性低減化評価 ⑦海藻由来成分による抗アレルギー・抗炎症効果 ⑧アレルギーモデル動物における免疫細胞に対する海藻由来成分の影響 ⑨アレルギー動物の腸管免疫に対する海藻由来成分の影響 ⑩アレルギーモデル動物に対する海藻由来成分の改善作用
2 点検・評価結果	
(1) 所内規程の制定	水産大学校動物実験委員会細則(平成28年4月1日制定)
(2) 動物実験委員会の設置状況・構成	○構成 委員長:校務部長 副委員長:校務部企画調整役 委員:水産流通経営学科1名、海洋機械工学科1名、 水産食品科学科3名、生物生産学科1名 (計8名) 開催実績:平成31年3月14日
(3) 動物実験等の実施状況	適正な方法、設備で実施されるかどうか委員会で審査し、水産大学校代表が承認する。
(4) 教育訓練等の実施	平成30年5月29日に、動物実験参加学生に対する倫理面での教育を目的として、動物実験講習会を実施した。また、平

	<p>成31年11月30日、本部で開催された「動物実験勉強会」に本校食品科学科教授・准教授と生物生産学科講師（3名とも動物実験委員会委員）が出席者した。</p>
(5) 実験動物の飼養等	<p>特段問題なく飼育されていた。また、動物実験で使用する麻酔については、現在のエーテルから、セボフルラン等にシフトしていく予定。</p>
(6) 緊急時の対応	<p>平成30年度の動物実験で、緊急時の対応が必要となる事案は発生しなかったが、緊急時に異常が発見された場合は、動物実験委員会委員長（校務部長）に連絡し、「水産大学校緊急時連絡体制」に従い対応することとしている。</p>
(7) 総合評価	<p>現在の国立行政法人水産研究・教育機構動物実験規程及び水産大学校動物実験委員会細則に照らし妥当と評価した。</p>